

「最終試験（修士論文公聴会）」（M2・2月）評価 院生氏名（ ） 2017.11.15 作成  
 主査（ ）：\_\_\_\_\_点（50点満点） 副主査（ ）：\_\_\_\_\_点（50点満点） 合計点：\_\_\_\_\_点（100点満点）

評価項目	得点				
	1	2	3	4	5
問題設定：問題意識が明確であり、学問的意義と独創性を有しているか。	問題意識がまったく明確でなく、学問的意義と独創性もまったくない。	問題意識はあまり明確でなく、学問的意義と独創性に欠ける。	問題意識はある程度明確であるが、学問的意義と独創性に欠ける。	問題意識は明確であるが、学問的意義と独創性にやや欠ける。	問題意識が明確であり、学問的意義と独創性を有している。
目的：研究の目的は明確か。	目的の目的がまったく明確でない。	目的があまり明確でない。	目的はある程度明確である。	目的はかなり明確である。	目的はきわめて明確である。
方法：再現可能な方法が正確に記述されているか。	手続きや分析方法も含め、記述内容や正確さがまったく不十分である。	手続きや分析方法が大まかに説明されているが、あまり正確とは言えない。	手続きや分析方法がある程度正確に説明されているが、不足しているか過剰な点がいくつか見受けられる。	手続きや分析方法がほぼ正確に説明されているが、わずかに不足しているか過剰な点がある。	手続きや分析方法が再現可能なまで正確にかつ過不足なく説明されている。
結果：分析結果が明瞭に示されているか。	分析結果の説明が不十分で不明瞭である。	分析結果の説明をある程度してはいるが不明瞭である。	分析結果の説明はほぼ十分だがあまり明瞭でない。	分析結果の説明は十分で、かなり明瞭である。	分析結果の説明は十分で、きわめて明瞭である。
考察：目的に照らした考察が行われているか。	目的に照らした考察がまったくできていない。	目的に照らした考察が不十分である。	目的に照らした考察がほぼできている。	目的に照らして考察がかなりよくできている。	目的に照らした考察が十分にできている。
実践性：研究テーマが社会に関わる実践的な内容となっているか。	研究テーマに社会的意義がまったく認められない。	研究テーマに社会的意義がほとんど認められない。	研究テーマに社会的意義があまり認められない。	研究テーマに社会的意義がかなり認められる。	研究テーマに社会的意義が十分認められる。
発展性：その研究分野の発展に寄与しうるか。	その研究分野の発展に寄与するものではない。	その研究分野の発展にほとんど寄与することはない。	その研究分野の発展に少しばかり寄与する。	その研究分野の発展にかなり寄与する。	その研究分野の発展に十分に寄与する。
研究の公表：その研究の一部をすでに公表しているか。	まったく公表していない。	学会発表のみ行っている。	紀要への投稿のみ行っている。	学会発表、紀要への投稿を行っている。	学会誌またはそれに準ずる雑誌に投稿している。

					る。
プレゼンテーション：プレゼンテーションの方法が適切であったか。	発表内容、スライドの見やすさ、話し方にやや問題があった。（手元ばかり見るなど）	スライドは見やすかつたが、発表内容がやや貧弱であり、話し方があまり明瞭でなかった。	スライドは見やすく話し方も明瞭であったが、発表内容がやや貧弱であつた。	発表内容は充実していたが、スライドの見やすさや話し方にやや問題があった。	スライドは見やすく話し方も明瞭で、発表内容は非常に充実していた。
口頭試問：試問に対して適切に応答できたか。	多くの質問の意図を読み取れず、多くの回答は不十分であった。	大体の質問の意図は読み取れたが、多くの回答は不十分だった。	大体の質問の意図は読み取れたが、一部の質問に対しての回答が不十分だった。	ほぼすべての質問に対して適切に回答できた。	すべての質問に対して適切に回答できた。